

御部ダムだより

第3号(平成22年度)

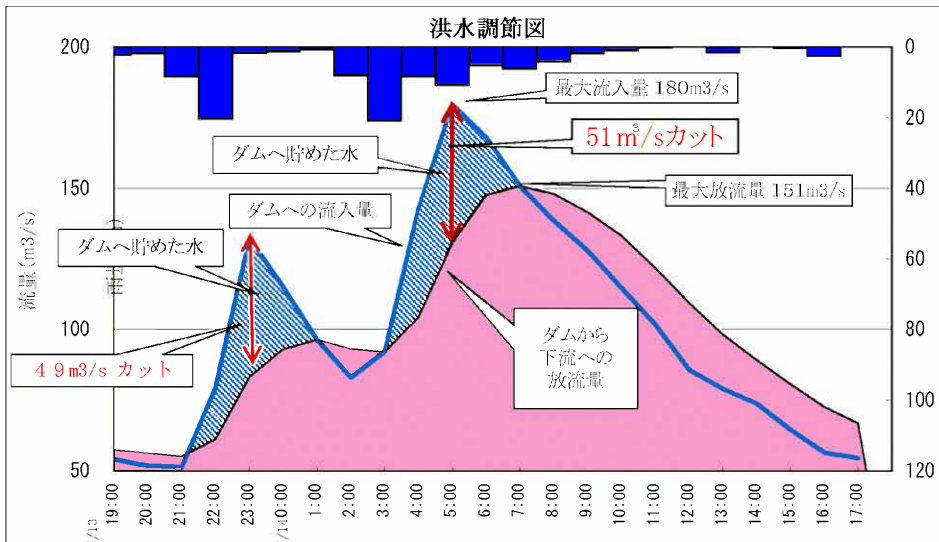
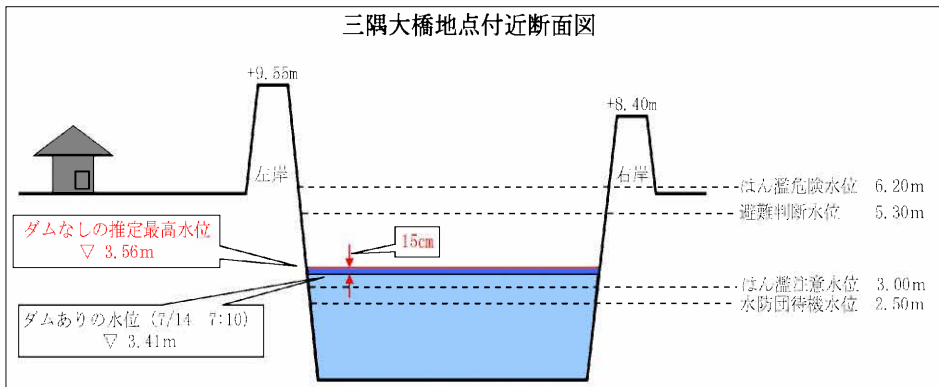
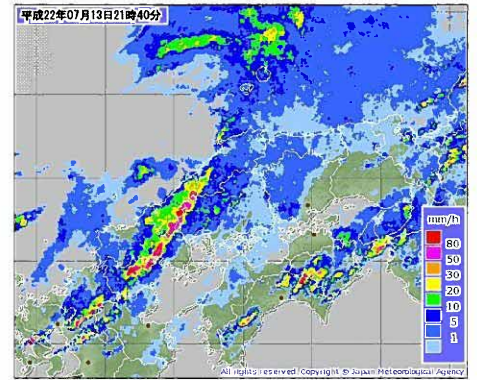
平成22年11月

浜田県土整備事務所

今年の洪水期を振り返って

今年の洪水期は、三隅川において大きな水害も無く無事に終わることができました。御部ダムでは7月13日から14日にかけて洪水調節を行いましたので、その概要をお知らせします。

時は遡り、7月13日、西日本に停滞し、活動が活発となった梅雨前線の影響により、御部ダム上流では7月12日の降り始めから13日にかけて113mmの雨量を観測し、15日にかけての総雨量は200mmを超えました。この出水により、御部ダムでは最大180m³/sの洪水に対して流量を51m³/sカットし、ダムがない場合に比べ、三隅大橋水位観測所において約15cm水位を下げ、下流



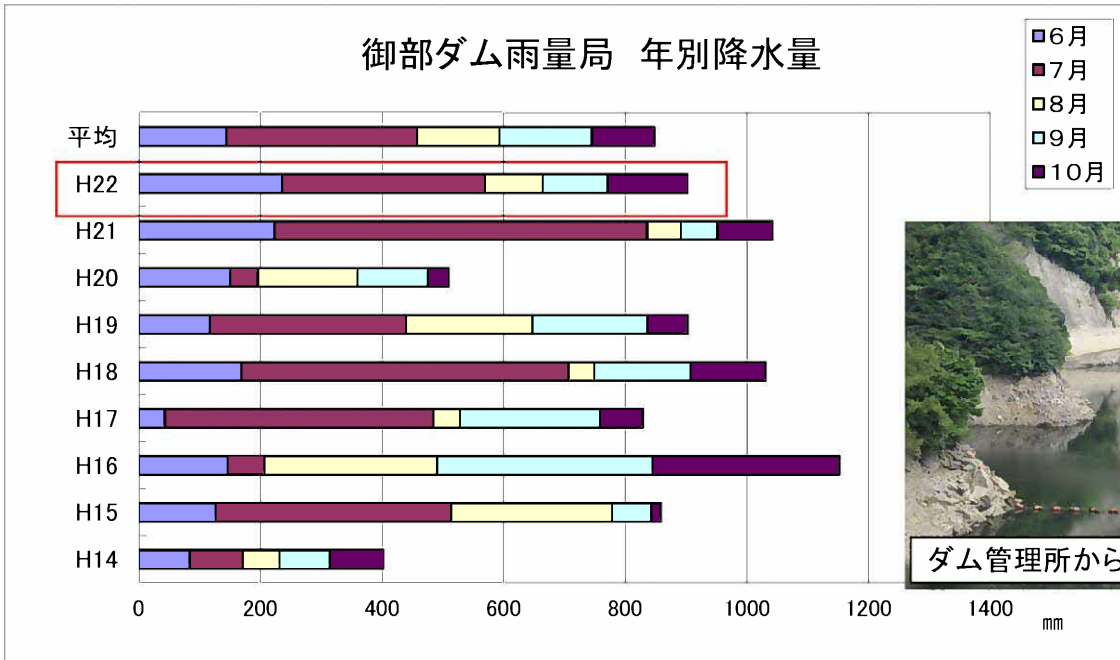
このようにダムは洪水時、上流でこっそりとその機能を発揮しています。今後も日常の点検や洪水に備えた訓練を行い、ダムの持つ機能を最大限発揮でき

参考

たった15cm?と思われる方もおられるかもしれませんが、今回は避難判断水位まで2m近く余裕がありましたが、これがその近くまで上がった場合は15cmの差が大きく影響します。なお、今回のカット量は51m³/sでしたが、御部ダムは58災規模の降雨があった場合、最大500m³/sをカットする能力を持っています。

渇水対策について

今年は記録的な猛暑となりましたが、8月、9月の降雨量が過去10年の平均を下回り、御部ダム貯水位は最低水位89mを下回る見込みとなったため、10月2日から発電放流（1.02m³/s）を停止しました。その後、貯水位がこれ以上下がらないようにするため、流入量と同量の放流を行う放流量調整を行っています。
（H22.11.18現在）



ダム管理用設備の更新について

平成19年度から老朽化したダム管理用設備の更新を随時進めています。今年度はダムの心臓部ともいえるコンピューターの更新に着手しています。来年の2月上旬から新しい設備での運用を目標に、年明け早々から旧コンピューターを停止し、新しいコンピューターへの切り替え作業を行います。設備が更新されると、洪水時に、これまで手で行っていたデータの入力を自動化することで、流入量の予測や、関係機関への情報提供を迅速かつ的確に行うことが可能となります。設備の更新期間においては、水位雨量データの欠測や御

22年が経過したコンピューターです。見た目はきれいですが、かなりく



終わりに

管理所からの眺めです。

今後も御部ダムでの出来事をどんどんお知らせしていきたいと思っておりますので、御部ダムを暖かく見守っていただきますようよろしくお願いいたします。

11月15日撮影

